

「真夏の決戦、シリーズは混戦へ」



センターコンソールに注目！

2013K 耐久/GT 耐久東海シリーズ第3戦 GT 耐久は、23 台の参加者を集め、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

予想よりはるかに早く梅雨明けを迎えた東海地方は、午後のじりじりと照りつける日差しが暑い。しかしながらゲリラ豪雨の予報もあり予断を許さない空模様。

「1 + 2 C」クラス(1500cc および特認 1600cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車のクローズドクラス)

開幕戦に初出場で優勝をさらった#88の菱木シビックが、今回はCVT車でエントリー。“参加しやすいこと”をコンセプトにしたこのマシン、どんな走りを見せつけるか。また、#108の「IDI マルヨシスターレット」も初エントリー、こちらも注目。

■予選

予選で1番時計をたたき出したのは、なんと#88「菱木レーシングシビック」！1'06.444と開幕戦の4秒台には及ばない(細かい仕様が違うため)が、十分以上の速さ。2位は#108「IDI マルヨシスターレット」が1'07.467で続き、3番手には#70「トータルセブンシビック GT」が1'08.831で並んだ。

以下4番手#24「改瀬工業 Vti シビック」1'09.314で1500シビックが続き、前戦優勝の#92「ワンナイヴィッツ」が1'10.383で5番手、最後尾は#107「トータルセブンロードスター」1'15.020というグリッド。

■序盤

序盤はほとんど差のない立ち上がり、その中でトップを行くのは#108「IDI マルヨシスターレット」、GT 耐久初参加ながら、K 耐久やFSWでのレース経験も豊富。2番手は#24「改瀬工業 Vti シビック」、注目の#88「菱木レーシングシビック」は同ラップの3番手でついていく。

■中盤

午後2時半過ぎに管制塔のモニターに雨の一報がもたらされる、各チームクルーたちもアプリでチェックするなど緊張が走る。果たしてその10分後、スコールがサーキットを覆う。雨足は強いものの数分であがり大きな混乱は見受けられなかった、各ドライバーの集中力は高いようだ。

そんななかで1時間経過時に首位を行くのは、#24「改瀬工業 Vti シビック」。2位#88「菱木レーシングシビック」、3位#70「トータルセブンシビック GT」と1500シビックが上位陣を形成。4位#92「ワンナイヴィッツ」、5位#107「トータルセブンロードスター」。序盤トップに立った#108「IDI マルヨシスターレット」はエンジン不調から、最初のピットイン時にリタイヤとなった。

雨の上がったコースは、以前にもまして強烈な日差しと暑さが襲う、レースはまだ始まったばかりだ。



なんと予選トップからCVTが初優勝！ #88



今季初参加で2位 #24



午前中は初夏らしい天気にも恵まれた

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

中盤から終盤にかけて順位を上げてきたのは#88「菱木レーシングシビック」、CVTの利点を生かし立ち上がりでは、上位クラスにも劣らない速さを見せ、トップを奪取。2位は#24「改瀬工業 Vti シビック」、3位は#70「トータルセブンシビックGT」とシビック三つ巴は変わらないが、#88がじわじわと引き離しにかかる。中団以降は#92「ワンナイヴィッツ」が#107「トータルセブンロードスター」とのギャップをひろげたか。

■最終結果

優勝は#88「菱木レーシングシビック」、CVTでの優勝は東海シリーズ初のこと。第2位は#24「改瀬工業 Vti シビック」が2周差まで詰め、3位は#70「トータルセブンシビックGT」とシビック1500勢が表彰台を独占。4位#92「ワンナイヴィッツ」、5位#107「トータルセブンロードスター」という最終結果。

■総評

1500シビックはEG発売から数えると20年以上となるが、現在でもクラス最強ともいえるSOHC VTECと4輪ダブルウィッシュボーンという高いポテンシャルを持っている。その一方2速のギヤが広く、ヘアピンの立ち上がりなどが弱点とされている。さらに1500のMTは現在では個体数も減る状況にある。

そんな悩みを解消すべく、CVTを持ち込んだ菱木レーシングのチャレンジは大成功。レース中のラップタイムも6秒台を記録し、立ち上がりの加速感もまずまずというドライバーの意見もあるなど、今後が注目される。またCVT(ホンダ・マルチマチック)車は入手しやすいということもポイントが高い。

この結果シリーズ争いは大混戦。第2戦で優勝し、今回4位に入った#92「ワンナイヴィッツ」が70Pで首位だが、#70「トータルセブンシビックGT」がわずかに1P差で追えば、さらに4P差で#88「菱木レーシングシビック」が続き、今シーズン初参加の#24「改瀬工業 Vti シビック」もしっかりとポイントを稼ぐなど、先の展望が見えないくらいの大接戦となっている。次戦もサマースペシャルでポイント増量ラウンド、シーズン後半に向けて目が離せない。



表彰台はシビック独占 #70



シリーズランキングトップに！ #92



オープン暑いですか？ #107



速さを見せたがエンジンブロー #108



立ち上がりは上位クラスにも負けない！





「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

3Cクラスは、全クラスで最も多い10台のエントリー。2戦を終えて、優勝こそないものの連続表彰台で#33「ボディショップ國盛ミラージュ」がランクトップ。それを#62「RTカーライフ名古屋WN CLNシビック」と、#111「S'tecAE-1ファジートレノ」が追いかけて、この3チームのポイント差は5Pという接戦の上位争い。それ以外にも第2戦で優勝した#880「カーワークスCCMC シビック」など有力チームがこぞって参加した第3戦は否が応でもヒートアップ、タイトル争いへの天王山ともいえる真夏の激走サマースペシャルを制するのはどのチームか。



お見事初優勝！ #87

■予選

予選でトップタイム記録したのは#87「瀬戸自動車 SYC シビック」1'03.681、クラスで唯一3秒台に入れ全体でも2番グリッドを獲得し意気が上がる。予選2位は#450「トルネオの大冒険」1'04.451、前戦で予選1位からスタートして2位となり速さを証明した、次に狙うは頂点しかない。3位は#72「SWEET SIGNAL パルサー」1'04.582、個性的なチョイスだがいよいよその速さを発揮してきたか。次は#111「S'tecAE-1ファジートレノ」1'05.240、経験豊富なチームだけにうまくまとめて4位。5位は#62「WN CLNシビック」1'05.241開幕ウイナーはこの位置。6位は今季初参加の#318「T-FACTORY 318is」1'05.280、予選2位から6位まではコンマ8秒強のあいだに連なる僅差の争い。



シリーズランクトップをキープ #33

予選7位は#106「D&M スパイクオート106」1'05.801、#318のBMWと並ぶインポートカー、パワー的には国産勢に劣るものの、バランスのとれた操縦性とベテランの技で上位進出を狙う。8位#33「ボディショップ國盛ミラージュ」1'06.355、予選は思ったほど伸びなかったようだが、現在ランクトップチームだけに侮れない。9位は#880「カーワークスCCMC シビック」1'07.170、こちらも前戦ウイナーであり上位進出は手堅いか。10位は#91「BRP スターレットターボ」1'08.858。

■序盤

スタート直前で#72「SWEET SIGNAL パルサー」のエンジンがかからない。グリッドから戻され、ピットスタートに。義務ピット解禁前はトップは順当に#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、2番手には#62「WN CLNシビック」があがり、3番手#450「トルネオの大冒険」、4番手#111「S'tecAE-1ファジートレノ」と続く。



嬉しい初表彰台！ #72

1時間経過では、ピット戦略の関係で#880「カーワークスCCMC シビック」が首位、それを#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、#62「WN CLNシビック」、#450「トルネオの大冒険」が追う、上位はシビック（ホンダ）勢。

■中盤

中盤になってじわじわと順位を上げてきたのは#33「ボディショップ國盛ミラージュ」、2時間経過時点で目の前の敵である#450「トルネオの大冒険」と同一周回で3位を走り、トップをゆく#87「瀬戸自動車 SYC シビック」を2Lap差と追いあげ体制。



ここから巻き返しました！

ピットスタートだった#72「SWEET SIGNAL パルサー」も6位まで順位を上げる。この中団の争いはし烈で、4位#880「カーワークスCCMC シビック」、5位#106「D&M スパイクオート106」、7位#111「S'tecAE-1ファジートレノ」が1周差の中にひしめきあう。気になるのは#62「WN CLNシビック」でトラブルのようで周回が伸びない。

Race Report

■終盤

2時間半経過で、#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」は2位に上がり、122LAPで首位をゆく#87「瀬戸自動車 SYC シビック」を1Lapまで詰める。#72「SWEET SIGNAL パルサー」も119Lapで3位。119Lapの4位には#106「D&M スパイクオート106」、5位#450「トルネオの大冒険」は118Lap、6位#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」118Lap、7位#91「BRP スターレットターボ」115Lap、8位#880「カーワークス CCMC シビック」113Lap、9位#318「T-FACTORY 318is」111Lap、10位#62「WN CLNシビック」。

通常なら、このあたりで勝負の行方が分かりそうなものだが、サマースペシャルにおいてはここからが正念場、もう一山来るのか。

■最終結果

3時間半のサマースペシャルを制したのは、#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、1Lap差に詰め寄せられたが最後は2Lapの差をつけて振り切った。2位は猛追及ばず#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」、開幕から3戦連続表彰台。3位は#72「SWEET SIGNAL パルサー」がピットスタートを挽回し、表彰台にたどり着いた、チームは参戦以来の嬉しい初表彰台。

4位は#106「D&M スパイクオート106」、実力派チームがポイント獲得、5位450「トルネオの大冒険」、前戦のような爆発的な速さはないが安定感が出てきた。6位に#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」、雨が長引けばあるいは・・・だったがエンジンパワー的にはホンダには及ばないか。7位#91「BRP スターレットターボ」、このクラスでは数少ないターボ車が7位。8位はもう一台のインポートカー#318「T-FACTORY 318is」、数少ないFR車でもある。9位#62「WN CLNシビック」、開幕戦優勝だが今回は今一つ調子が上がらなかったか。10位は終盤にエンジンブローからリタイヤした#880「カーワークス CCMC シビック」が完走扱いでポイント獲得。



実力派チームは4位 #106



初優勝は持越し #450



雨が長引けば、あるいは・・・ #111



今回はただ一台のターボ車 #91



こちらは唯一のFR車 #318





シリーズランクは 3 位に #62



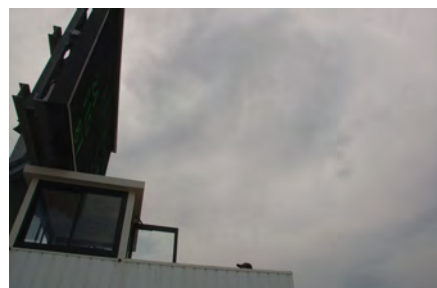
1Lap 差で完走 貴重なポイント #880



■総評

今回のキーワードは追い上げ、優勝こそ予選 1 番手からスタートした#87「瀬戸自動車 SYC シビック」だが、2 位#33「ボディショップ 國盛ミラーージュ」、3 位#72「SWEET SIGNAL パルサー」は予選下位、ピットスタートからの挽回で、耐久レースの醍醐味を見せてくれた。ともに個性的な車種チョイスだけに今後の活躍にも注目だ。

シリーズランキングは#33 の海老天がポイントを伸ばし首位をキープ、しぶとくポイントを獲得した#111 の AE-1 が 2 位に浮上、3 位は#62 のカーライフという状況。とはいえ 6 位の #106D&M レーシングまではトップから 20P 差となっており混戦模様。次戦もサマースペシャルポイント増量で、その混戦から抜け出すチームが現れるか。





「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

7台のエントリーを集めた排気量区分なしのOPクラス。ここまでのところ、#6「ペンズフレミング シビック」と#110「アライメント浜松シティー」が優勝一回4位一回という全く同じ組み合わせの同ポイントで首位という状況。サマースペシャル3.5Hの増量得点で頭一つ抜け出せるかが、今回のポイント。はたまた#18「T-BODY エクセルインテグラ」などの有力チームの逆転で混戦になるのか。



見事な逆転で連勝 #6

■予選

予選は#110「DXLアライメント浜松シティー」1'02.426で全体のPP、排気量こそ少ないが、軽量ボディでPPを獲得。2位には#18「T-BODY エクセルインテグラ」1'04.012いつもの”定位置”ではないが、2列目から逆転を狙う。予選3番手は、数少ないトヨタ車で奮闘する#15「キチキチ キッシースターレット」1'04.026。以下4番手#5「MMS 180SX」1'05.407、FRターボは熱にはどうか。5番手#9「くねくね男前定食シビック」1'05.780、6番手はこちらもFR、しかも大排気量#123「小林板金 Z32」1'06.053、前戦の勝者で優勝候補の一角#6「ペンズフレミング シビック」はトラブルで予選を走れず、最後尾スタートとなる、これは波乱の予感か。

■序盤

スタートでの首位は#110「DXLアライメント浜松シティー」で変わらないが、#6「ペンズフレミング シビック」が最後尾からの追い上げでみるみる順位を上げる。そして30分ほどで2番手まであがり、トップを追走。3位は#18「T-BODY エクセルインテグラ」で様子を見ながらの展開か。

4位#15「キチキチ キッシースターレット」、5位#5「MMS 180SX」、6位#9「くねくね男前定食シビック」、7位#123「小林板金 Z32」という序盤。

■中盤

義務ピットも解禁され、各チームがドライバー交代などをし終わったところになると、#6「ペンズフレミング シビック」がトップに立つ、最下位からの奪取劇は見事。しかし同Lapで#110「DXLアライメント浜松シティー」がマークし、#18「T-BODY エクセルインテグラ」を離されまいとついていく。

4位の15「キチキチ キッシースターレット」を挟んで第2集団も#9「くねくね男前定食シビック」、#5「MMS 180SX」、#123「小林板金 Z32」が1Lap差に収まり接戦を展開している。

ここで注目は、久しぶりに出場の#123「小林板金 Z32」、サーキットにV6サウンドを轟かせストレートを行くさまは、アメ車のようにも迫力満点。幅こそ大柄なもの全長は意外に短く、もてあますほどでもなさそうだ。同じハイパワーFRの#5「MMS 180SX」とのバトルは見ごたえ満点で、GT耐久ならではの楽しみに溢れている。途中のスコールではスライドする場面も見られたが、それもFRの醍醐味。



シリーズランクも単独トップに



惜しくも2位 #110



連続表彰台を確保 #18

Race Report

■終盤

終盤は#6「ペンズフレミング シビック」と#110「DXLアライメント浜松シティー」の一騎打ち、スタートから2時間半では#6「ペンズフレミング シビック」が125Lapで総合の首位を行けば、#110「DXLアライメント浜松シティー」も123Lapで総合2位。#110は逆転を狙うにはもうこれ以上離されてはいけない。

スターレットで奮闘する#15「キチキチ キッシースターレット」も、4位走行ながら、先行する#18「T-BODY エクセルインテグラ」と同Lap、表彰台を狙うにはこちらもこれ以上は離されてはだめだ。

以下#9「くねくね男前定食シビック」が5位で、6位#5「MMS 180SX」と7位#123「小林板金 Z32」はFR対決となっている。



3位までは届かず #15

■最終結果

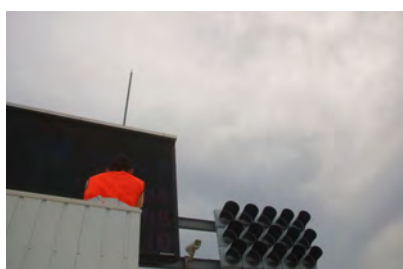
終盤の一騎打ちを制したのは、#6「ペンズフレミング シビック」、最後尾スタートから会心の逆転優勝。2位は#110「DXLアライメント浜松シティー」、最後26秒差まで詰めたが、ちょっぴり悔しい2位。他クラスのコースアウトからSC導入となった局面で逆転のチャンスもあったが、優勝までは届かなかった。

3位は#18「T-BODY エクセルインテグラ」が1LapのGapを保って表彰台を守った。4位は#15「キチキチ キッシースターレット」で表彰台までは一歩及ばなかった。

5位の#9「くねくね男前定食シビック」は、最終盤にスロー走行となったが、なんとかチェッカーまでもたせ5位フィニッシュ。6位#5「MMS 180SX」、7位#123「小林板金 Z32」の両FRも、途中のスコールを切り抜け、しっかりと完走を果たした。



スロー走行ながら完走を果たし5位 #9



スコールの影響はごくわずか



ターボ車は熱との戦いでもある #5



迫力満点 #123



■総評

シリーズランキングでは第2戦まで並んでいた、#6「ソーワエンジニアリング」と#110「アライメント浜松」から#6が連勝で一歩リード、70Pまで伸ばした。離されたくない#110は65Pで食らいつく。

3番手には着実にポイントを重ねた#15「カムレーシングワークス」が浮上し、#18「T-BODY エクセルR」が4位という状況。

次戦もサマースペシャル 3.5H、今回のような大逆転劇はあるのか、残暑を吹き飛ばす戦いに期待したい。

